

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.9
平成25年7月2日

全校朝礼の話よりー「地獄と極楽のちがいは？」7/1(月)

「地獄と極楽のちがいは？」

今日は、私が子供の時に聞いたお話をします。

ある人が、地獄とはどんなところか見に行ったそうです。みなさんはどんなところか想像できますか。すごく怖いところというふうに思いますよね。

行ってみると、ちょうど食事の時間でした。なんと、テーブルには豪華なおいしそうなお食べ物がたくさん並んでいます。そこにやせ細った地獄の人たちが入ってきて席に着きました。見ると、長いお箸が置いてあり、1mくらいあります。地獄では、それを使って食べなくてはならない決まりだそうです。

地獄の人たちは、その長いお箸を使って、食べ物を自分の口に運ぼうとします。しかし、お箸が長すぎて、食べ物を口に入れることができません。みんな口に入れようと必死になっているのですが、一口も食べられずに苦しんでいます。そして食事の時間が終わりになってしまいました。誰一人食事をとることができませんでした。

次に極楽に行ってみました。極楽も食事の時間でした。ここも地獄と同じように豪華な食事がいっぱい並んでいます。そこに楽しそうな表情で、すごく健康そうな人たちが入ってきて席に着きました。そして地獄と同じように、長いお箸を使って食べ始めました。ところが、極楽では、自分で食べようとするのではなく、お向かいの相手に食べさせてあげるので、食べさせてもらった人は、お返しに相手の口に食べ物を運んであげます。こうして、お互いに食べさせあうことで、楽しく食事をしているのです。

みなさんは地獄と極楽の違いがわかりましたか。

自分のことだけを考えて行動すると地獄。

他人のことを思いやって行動すると極楽。

地獄と極楽、それはどこか知らない遠いところにあるのではなく、私たちの心のなかにあるのかもしれない。

極楽にするためには、どんな行動をしたらよいかクラスでも考えてみてください。

きょうの朝会の話が終わります。

これは、仏教説話として有名なお話です。

本校の児童ではありませんが、教室でごみが落ちていて、そのクラスの子に拾うように言うと、「自分が落としたんじゃない・・・」と言い張って、拾おうとしない子がいるという話を聞いたことがあります。

こういう子は、自分のことしか考えず、自分にとって損か得かの価値観で生きてしまっているのではないのでしょうか。

「情けは人の為ならず」という言葉があります。この言葉は、「情けは人の為にならないよ」という意味ではなく、人に情け(人間味のある心、他人をいたわる心、思いやり)をかけていけば、めぐりめぐって自分に戻ってくるということを教えています。仏教では「因果」ということを教えます。原因があれば結果があるということです。

自分のことだけでなく、他人のことを思いやって行動する桜っ子が、増えてくることを期待したいと思います。

